

2023

スポーツから見える鹿児島市の良さ
「食や温泉、人の温かさ」

市長 大会などで県外に行かれることも多いと思いますが、やっぱり鹿児島市のことが好きとか、魅力だと思ふところはありますか。

小野さん 最近話題になった和牛日本一です。多くの部門で優勝し、すごいなと思いました。

市長 農家の皆さんが積み重ねてきた努力が結果を出しましたね。

やはり食事がおいしい県というところは大きな魅力ですよ。

鶴田さん 県外で食事をする機会も

ありますが、やはり鹿児島のご飯はとておいしくて、いろいろなものがあるなと私も感じます。気軽に温泉に入れるのもいいですね。

また、大学時代に鹿児島市の大会に出るために帰ってきた時には、結果が出ていないときでも「応援してるよ」などと励ましの声を掛けてくださって、鹿児島の人たちは本当に温かいなと感じることがありました。それが、大学卒業後に鹿児島に帰ってきたきっかけでもあります。支えてもらった先生や家族を含め、地元の人に恩返しをしたいという気持ちもありますね。



鶴田 玲美 選手

(株)南九州ファミリーマート所属の陸上選手。とちぎ国体「成年少年男女混合4×400mリレー」優勝、「成年女子100m」3位

小野 奏人 選手

鹿児島高等学校3年生の水泳選手。とちぎ大会「男子25m・50m自由形身体障害者1部」優勝



市長 鹿児島だったから競技生活に良い影響があったと感じる点はありませんか。

鶴田さん 陸上を始めたクラブチームは、子どもから大人まで入っていたので、年齢関係なく一緒にスポーツを楽しめたのは良かったと思います。

市長 生涯スポーツは重要ですよ。選手の皆さんはもちろん、多くの市民の皆さんが日常生活の中の生きがいとして、また健康づくりとして、スポーツに関われる環境はとても大切だと思っています。

2023
コロナ下での試練を越えて

市長 いよいよかごしま国体・大会が開催を迎えますが、コロナ下のこれまでの3年間、苦労されたことなどありますか。

鶴田さん 2020年シーズンは特にコロナの影響が大きく、3月以降の大会が軒並み中止になり、ようやく7月に試合ができました。大会出場を目標に冬は懸命に練習したので、シーズン最初から目の前の試合がなくなり、モチベーションを保つのがすごく難しかったです。

市長 モチベーションをどうやって維持したんですか。

鶴田さん ちょうどその時は調子が良くなかったもので、「いつか試合があったときに結果を出せるように、練習するための時間が自分に与えられたんだ」と言い聞かせながら、試合の再開に備えました。

市長 ぽっかり空いた時間を、自分にとって意味のある時間としてポジティブに捉えて行動したんですね。とても参考になります。

小野さん 僕は、コロナ下で2年間大会がなかったもので、どこを目標に定めたらよいのかが分からなくなりました。同じ時期に怪我もしてしまい、思うような泳ぎができなくなりました。どうにかしないと強くないなと思いつつ、とちぎ大会に向けて練習を続けました。狙った結果ではなかったですが、納得できる結果が出せたのかなと考えています。

市長 怪我が重なりながらも、この試練を乗り越えるんだという粘り強い意思を感じます。

2020年の開催延期から3年を経て開催できる、待ちに待った大会です。鹿児島、そして日本はこれから立ち上がれるんだという意気込みを、発信できる大会にしていきたいと思えます。お二人をはじめ、アスリートの皆さんの姿を見て勇気を感じてほしいですね。

2023
かごしま国体・大会へ向けて

市長 開催地になるのは約50年に1回のことで、前回は1972年。私も生まれていないんです(笑)。当時を経験した方々からはすごい大会だったと聞き、わくわくしています。現役で活躍する選手であるお二人の意気込みを、ぜひお聞かせください。



小野さん とちぎ大会で達成できなかった、25・50mでの自己記録・大会記録更新を狙いたいです。地元の皆さんも見てくれると思うので、元気をあげられたらいいなと考えています。

市長 いつも支えてくれる人の前で競技できるのも、地元開催ならではのですね。優勝に加え、大会新を出すという、その若さ溢れるキラキラ感ぜひ臨んでほしいと思います。

2023

新年の抱負

鶴田さん 私は、地元で国体がある時に競技できているのがとてもうれしいです。今までお世話になった人たちの前で走れるのは本当に幸せなことなので、家族や観客、県民の皆さんに、勇気や元気などを伝えられる走りをしたいです。

市長 県民の皆さん、特に子どもたちにぜひ見てほしいですね。先日、福岡で世界水泳の開催に向けたトークショーに参加しましたが、今の代表選手は、2001年の福岡の世界水泳や北京五輪を見て憧れ、現在に至っているという話がありました。お二人の姿を見た子どもたちが、「次はあの場所に出るんだ」と希望を抱いて、競技を始めたたり、努力を続けたりするきっかけになったらうれしいですね。

2023
新年の抱負

鶴田さん シーズンの前半は日本選手権を目標に、後半は国体を目指して、持ち味の後半の走りを磨きながら、苦手なスタートも強化したいです。

小野さん 大学生になり、環境も一変して戸惑うこともあると思いますが、ルーティンを作るなど、大学で水泳をするビジョンを固めて結果を残したいと思っています。

市長 お二人のご活躍を心から期待しております。かごしま国体・大会は、おそらく、コロナを乗り越えた形で開催する初の国体・大会になると思います。選手の皆さん、市民の皆さんと、両大会が素晴らしいものとなるよう盛り上げ、その熱い思いを結集して、人もまちも躍動する鹿児島市の大きな力にしていきたいと思っています。

